

はじめに

平成26年12月、県教育委員会では、社会経済の急速なグローバル化の進展を踏まえ、今後の10年を見据えた広島県教育の展開に係る方針をまとめた「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を策定いたしました。今年度は、「広島版『学びの変革』アクション・プラン」実行の2年目となり、平成30年度の全県展開に向け、各学校において児童生徒の「主体的な学び」を促す特色ある取組を進めていただいております。

「主体的な学び」を進めるに当たっては、教師が、児童生徒の知的好奇心を高めるために児童生徒の経験や既有知識を踏まえ、児童生徒の思いや願い、考えなどを大切にしながら、教科等の目標を達成させるために必要な学習内容や効果的な指導方法を取り入れ、学習活動を組み立てていくことで、「学習者基点の能動的で深い学び」を実現する必要があります。

こうした中、第1章では、教科調査と児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査を基に、児童生徒が、自ら課題を見付けたり、課題解決の過程において知識・技能を活用して思考・判断・表現したり、他者と協働して学んだりする活動と学力との関連について分析をしました。また、新たに教科調査と「家庭学習」や「めあてと振り返り」に関する児童生徒質問紙調査との関連についても分析をしました。

第2章では、教科調査において課題のあった問題について、その問題のねらいや誤答の状況等に解説を加え、指導のポイントを示しています。第3章では、今年度の調査で成果のあった市町の取組事例を紹介しています。

各学校においては、学校全体としての組織的な取組を進めるに当たり、本報告書を参考に児童生徒一人一人の分析・考察を深めるとともに一層の授業改善を進め、基礎的・基本的な知識・技能に加え、習得した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力の育成を図っていただきたいと考えております。

最後に、本調査の実施、分析、報告書作成に御尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝を申し上げます。

平成29年1月